

特別企画展

# 雅静の美

正法寺の至宝を巡る



十六羅漢像  
戒博伽尊者  
[南北朝時代]



木造 毘沙門天立像



開山無底良韶禪師像  
〔延文5年(1360)〕

時を紡いだ  
ありのままの姿

2021年  
4月24日(土) -  
9月26日(日)

- ◆ 主催 えさし郷土文化館 奥州市教育委員会
- ◆ 特別協力 大梅拈華山 圓通 正法寺

## えさし郷土文化館

Esashi Native District Cultural Museum

<https://www.esashi-iwate.gr.jp/bunka/>



# みちのくの禅道場に伝わる 風格と寺宝

奥州市水沢黒石町に所在する曹洞宗の古刹、大梅拈華山圓通正法寺は、南北朝時代の貞和4年(1348)、總持寺二代、峨山韶碩禪師の高弟であった無底良韶禪師によって開山しました。

無底禪師の法統を嗣いだ月泉良印禪師は正法寺の伽藍を整え、門弟を数多く育成し、奥羽両国に教勢を拡大。多くの信奉者を得て、正法寺一門は大きく発展しました。この間に總持寺峨山禪師より認可を得るなど、正法寺は永平寺、總持寺と並んで「第三の本山」の格式となり、その勢いは東北を中心に関東・関西へも及んだと伝えられています。

「第三の本山」の格式は江戸時代初期に幕府の政策によって失われ、正法寺は總持寺の直末筆頭寺院となりましたが、由緒ある古寺として仙台藩から75石の寺領を得、法堂(本山)、仏殿、山門は藩によって修繕されるなど別格の庇護を受けていました。

日本一の茅葺屋根を誇る法堂の大建築に代表される伽藍には、秘仏本尊の如意輪観世音菩薩をはじめ、その歴史と格式を裏付ける尊像・寺宝・文化財が数多く安置されています。

本展では、通常非公開となっている正法寺の寺宝を公開。東北地方における宗教・文化形成に果たした正法寺の大きな役割を通じて、郷土の歴史の一端に触れて頂ければ幸いです。



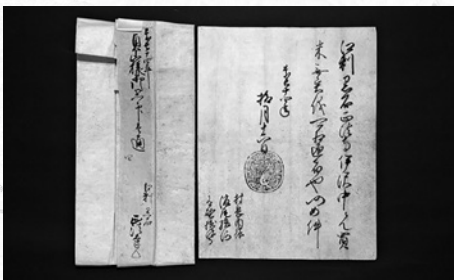
厨子入不動明王立像  
南北朝時代



独鈷杵  
開山遺宝



滑石製婆環  
開山遺宝



伊達政宗黒印状  
慶長14年(1609)



正法眼蔵  
寿雲良椿和尚書写  
永正9年(1512)



両国曹洞本寺峨山禪師置状  
總持寺峨山韶碩狀  
慶安2年(1362)

特別企画展

## が せい 雅 静 の 美 正法寺の至宝を巡る

2021年 4月24日(土) - 9月26日(日)

[時間] 9:00 - 17:00 [年中無休]

[入館料] 一般 300円 / 高校生 200円 / 小中学生 150円

※未就学児童は無料

※「奥州市民パスポート」の提示で奥州市民は入館半額

※正法寺、えさし郷土文化館、歴史公園えさし藤原の郷の相互半券特割があります(4/1 - 9/30)

◆特別協力 大梅拈華山 圓通 正法寺

えさし郷土文化館

Esashi Native District Cultural Museum

岩手県奥州市江刺岩谷堂小名丸102-1

TEL : 0197-31-1600

<https://www.esashi-iwate.gr.jp/bunka/>